

第1857回埼玉県教育委員会定例会

- 1 日 時 令和元年5月14日(火) 午前10時開会
午前11時23分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 小松教育長、上條教育長職務代理者、後藤委員、伊倉委員、遠藤委員、石川委員、小島副教育長、佐藤教育総務部長、渡邊県立学校部長、関口市町村支援部長、古垣教育総務部副部長、日吉県立学校部副部長、芋川県立学校部副部長、石井市町村支援部副部長、依田市町村支援部副部長、金子県立学校部参事兼市町村支援部参事、石川高校教育指導課長、横松生涯学習推進課長、下野戸市町村支援部参事兼小中学校人事課長
岡部書記長、平野書記、中村書記、古澤書記、茅野書記、天宮書記
- 4 会議の主宰者 小松教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
 - 小松教育長が、後藤委員を議事録の署名者に指名した。
- (2) 報告事項
- ア 文部科学省委託事業「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の取組について
- 石川高校教育指導課長 (提出理由、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)について、県立常盤高等学校、研究の背景と目的、研究方法、評価及び考察、まとめ及び研究成果の普及に向けた取組について説明)
- 上條教育長職務代理者 6年連続看護師国家試験100%合格という成果に結び付いたことは素晴らしいことです。それ以上に、看護職は豊かな人間性が求め

られているわけですが、5年間の長期継続した指導のアドバンテージを生かし、実体験を通じて、それぞれの生徒のマインドセットを作り上げていることは素晴らしいことだと思います。また、それを継続して行ってきたことについては敬意を表したいと思います。質問が2点あります。1点目は、教員の指導姿勢として、コーチングを意識した指導が多くなったという記述がありますが、コーチングを意識した指導というのは、教員に対してそういった方法論をきちんと研修等で教えたのでしょうか。2点目ですが、課長からの説明にもルーブリックの話がありましたが、最終的にはキャリア形成に直接つながる話ですので、各評価項目の基準に到達すると、実際の仕事に就くことになると思いますが、自己評価、他者評価や自分を振り返りながら成長していくことは非常に重要です。就職後の評価については、目立った変化が見られるのでしょうか。例えば、他の学校を卒業して看護師になった方と比べると非常に評価が高いなど、そうしたことはあるのでしょうか。そうあってほしいのですが、就職後の評価についてはフォローしているのでしょうか。教員に対するコーチングの研修についてと就職後の評価のフォローについて説明してください。

石川高校教育指導課長 まずコーチングについてですが、具体的にコーチングにターゲットを当てたような研修はそれほどなかったと思います。SPHの取組を通して、生徒の考えを最後までしっかり聞くという教員の姿勢や教員が一方的に指導するのではなく、生徒の提案や意見を意識した関わり方を重視したことが、コーチングを意識した指導につながったものと考えます。2点目の就職先での評価のフォローについてですが、実際に就職先への調査をしているわけではございませんが、実習現場での変化については、「これまでの生徒と比べて、この取組を経験した生徒たちは自分で考え、その意見を上司に伝えることができる。」といったような、積極的に取り組むことのできる生徒が増えたという声を聞いております。

上條教育長職務代理者 恐らくコーチングを意識した指導がうまくいったので、そのような評価につながったのだと思います。コーチングを意識した指導というのは、なかなか日本の教育の中では少ないと思います。どうしても形式知を

教育するところに重点が置かれてしまいがちですので、暗黙知も含めた考え方を伝えていくということも考慮してほしいと思います。生徒たちを目的の方向に導くためのサポートをしてもらえるよう、教員に対して、研修等でそうした力を発揮してもらえるような取組を進めてほしいと思います。また、この学校だけではなく、そういったことを意識した教員に対する研修も考えてほしいと思います。今回のプログラムは終了したわけですが、引き続き同じような取組を進めることになると思いますので、是非、就職後の評価については適宜フォローしながら、今後の取組に生かしてほしいと思います。

後藤委員 文部科学省の委託事業として5年間取り組んできたということで、とても良い成果が出たのだと思います。先ほど上條委員からもお話がありましたが、被災地でのボランティア活動や大学との連携など、5年間取り組んできて、今後継続していくものと形を変えていくものがあると思います。新年度はどのような形でスタートしているのでしょうか。

石川高校教育指導課長 全てを把握しているわけではありませんが、国からの予算で実施した事業ですので、できるものとできないものがあります。ただ、ループリックの評価などは、積極的に取り入れて実施しているものと思います。

後藤委員 予算が絡んでしまうことはとても残念なことではありますが、受け入れた大学、企業、病院などから感謝されているケースもあると思いますので、就職先との連携はしてほしいと思います。

石川高校教育指導課長 大学や研究所等との連携につきましては、当課の既存の事業等を活用しながら、積極的に取り組んでほしいと考えております。

後藤委員 この中身で続けられるような仕組みも、是非考えてほしいと思いますし、学校側にも考えてほしいと思います。実際に社会に出て行った生徒たちの活躍が形として見えてくれば、世間や社会の評価に必ずつながってくると思いますので、今後の見せ方の部分についても指導し、連携してほしいと思います。

遠藤委員 ループリックについては最近いろいろなところで使われ始めています。四つの視点に分かれているということで、細かく説明がありましたが良くできていると思います。特に四つ目の「生涯学び続ける力」を評価していくという

のは面白いと思います。専攻科に入ると自己評価が厳しくなるけれど、全体的には評価が落ちずに成長しているのだと感じることができます。成長すると自己評価は厳しくなりますので、そこをうまく面接等でフォローして、それを自信につなげていくというやり方は、ルーブリックの使い方として本当に良いと思います。

伊倉委員 私も素晴らしい取組だと思いました。今回、文部科学省から5年間のプログラム開発委託ということだったと思いますが、やはり新規に何かを開発するときには、最低でも3年から5年という年月を掛けて物事を作り上げ、変えていくということが必要なのだと改めて実感しました。行政という立場からすると単年度予算ということもあると思いますが、これくらいの長期的視点で取り組んでいくと成果が出やすいのではないかと強く感じます。上條委員、後藤委員からお話があったのと同様に、委託事業は終了していますが、やはりこの後生徒たちがどのように職場で成長していくかについて、5年間くらいは追い続けてほしいと思います。そうすることで、エビデンスとしても正確なものとなり、説得力が増すのではないかと思います。また、予算が無いから14回生からはできませんということでは少しかわいそうだと思いますので、14回生以降の生徒たちにも、より良い看護師になってもらうために、何らかの手立てを関係者皆で考えてほしいと思います。

石川委員 平成30年度の修了生77名全員が看護師国家試験に合格しておりますが、元々の常盤高校の入学生は何人くらいでしょうか。一般の高校だと中途退学もありますが、その辺りのことはどうなっているのでしょうか。

石川高校教育指導課長 常盤高校は2クラスございますので、通常だと80名程度になります。5年一貫教育ですので、3年間の高校の課程が終わった際に、一部の生徒が進路変更したことはあったかと思えます。

石川委員 取組の中ではキャリア形成を意識したということですが、将来看護師になるという強い目的意識を持っている生徒たちが、最後までその意志を貫ける形に結び付いていればよいと思いますが、取組にはそういった面はあるのでしょうか。

石川高校教育指導課長 5年間、生徒たちに志を高く持ち続けさせることはかなり大変なことかと思いますが、このような取組を通して、教員が生徒たちの意識付けをしっかりとやっていこうという姿勢を持っておりますので、そうした部分では成果が出ているのではないかと思います。

上條教育長職務代理者 先ほど遠藤委員からお話があったルーブリック評価の活用の仕方についてですが、今回の常盤高校の生徒たちだけでなく、ちょうど高校生くらいの思春期の子供たちにとっては、自分を振り返る機会がなかなか持てなかったり、自分を知る機会が無かったりすることは、悩みの種になっていると思います。そうしたことから、ドロップアウトしてしまうようなケースも一部にはあるのかもしれないと、先ほどの話を聞いていて感じました。したがって、この内容ではないにしても、様々な視点で自分を振り返り、次のステップに踏み出して行けるような仕組みを作ることは、非常に有効なのではないかと感じます。やり方の工夫は必要だと思いますが、是非検討してほしいと思います。実はこうした取組は、360度評価のような形で企業でも行っております。上司の評価、部下の評価、本人の評価において、どのように誤差が出ているかを確認するもので、いくつかの観点からレーダーチャートを作るといったことを企業は盛んにやっています。もしかしたら、やり方によっては高校生くらいの年代の人たちにとっても、自分を振り返り、次のステップに進むためには重要な手法かもしれません。是非検討してほしいと思います。

石川高校教育指導課長 常盤高校の成果を広めるとともに、ルーブリックの評価が有効であるということを各学校に周知しながら、より良い方法を研究していきたいと考えております。

小松教育長 常盤高校が今後もより良い取組を継続できるよう、何らかの支援を教育委員会として行い、ルーブリック評価をはじめとした成果を他の学校に広めていけるようにしたいと思います。

イ 埼玉県社会教育委員会議の建議について

横松生涯学習推進課長 (提出理由、テーマ、内容及び要旨について説明)

後藤委員 非常に分かりやすくまとめられており、特に五つのアプローチはとても分かりやすく、解説を読めばよく理解できるものとなっています。ただ、これを冊子として残すだけでは、ほとんどの人が見ないで終わってしまうと思います。これを広めるための今後の活用方法や周知の仕方について説明してください。

横松生涯学習推進課長 各市町村教育委員会には配布いたします。それから各公民館にも配布し広めていきたいと思っておりますし、ホームページにも掲載いたします。また、社会教育関係の会議等がございますので、そうした場で、できるだけ詳しく説明していきたいと考えております。さらに、これは実践しなければなりませんので、今年度いくつかの公民館に御協力を頂き、実践していただく予定です。そこで出た成果を広めていければと考えております。なお、5番目の障害者に対する生涯学習や6番目の外国人に対する生涯学習などについては、非常に難しい部分ではありますが、できるだけ県教育委員会といたしましても、取り組んでいきたいと考えております。

後藤委員 私もNPOの活動をしていますが、こういう取組はとにかく結果が出て成果が残っても、なかなか継続しないという問題があります。何が大切かというと、そこに参加している人たちの満足感や達成感であり、一番大切なのは「楽しさ」なのだと思います。冊子を見ただけでは、楽しさまではなかなか伝わりません。そうすると、良い取組がまとめられていても、これが広まらないことになってしまいます。例えば、実践している事例については、ポスターやポンチ絵にまとめて、皆の笑顔が出ているような写真を掲載することで、広がりやすくなるのではないかと思います。いろいろな所で目に触れる機会があれば、こういった取組の分析ができると思います。代表的な事例はとても分かりやすいので、冊子を作って終わりにするのではなく、是非、見せ方の工夫をしてほしいと思います。

遠藤委員 社会教育と生涯学習の区別ができていないまま、生涯学習で終わってしまっているような状況が続いています。それらをきちんと区別して並行して行うべきであるという資料を見ますが、それは意味が違います。社会教育とい

うのは、このテーマにもあるとおり「地域課題をとらえ、どう解決に向けていくか」であり、地域と仲良くし、いかに幸せな生活を築き上げるかが問題で、そこに生涯学習が入り込んで、イコール社会教育と捉えられ、混乱しています。人間が一生涯どう生きていくかという課題は、全ての人にとっての課題ですので、別途考えなければならないことです。その辺の区別をしながら、しっかりとこのテーマに合った形でそれを踏襲し、生涯学習との関連性を考えながら、取組を進めてほしいと思います。

横松生涯学習推進課長 正に社会教育という意味では、意図的、計画的に行政が先頭に立って取組を進めていかなければならないと感じております。ただ、我々が手を入れるだけでなく、その後に自立して取り組めるようにならなければなりませんので、独りよがりにならないように、今後も進めていきたいと思えます。

伊倉委員 テーマが「地域課題の解決」ということで、非常に分かりやすくなっていると感じます。地域課題の解決というのは、当事者である県民、市民一人一人が、自分たちが当事者であるという意識を持つことが非常に大切だと思っております。今、課長から話があったように、きっかけとしては行政が主導することになるかもしれませんが、そのきっかけによって県民誰もが何かしら一歩を踏み出すところがスタートになるのだと思います。是非、こうした建議等も市町村に対してというより、県民一人一人に訴えていくという視点で取組を進めてほしいと思います。県民が誰かにやってもらおうと思っている限り、なかなか、より良い社会にならないのではないかと思いますので、こういった良い取組が、「あなたでもできます。」というような広報の仕方や、民間企業と連携してスーパーに置いてもらうなど、多くの人に目にしてもらえるようなコマースの仕方をしていけばよいのではないかと思います。既に活動している人たちは、当事者になっています。そうではない大多数の県民に対して、目を覚ましてもらうようなきっかけが作ればよいのではないかと感じました。

上條教育長職務代理者 15ページに、県に求めるものが具体的に示されています。今回の建議を具体化するために、予算の問題も含めて効果的に推進してい

くための工夫の仕方や、行政としての具体的な行動を示していく必要があるのだと思います。先ほど話に出ていたように、既にNPO等で活動している人はたくさんいらっしゃいます。そういう方々がファシリテーターにならないと動きが取れないだろうと思いますので、そういった方々を行政としてどの程度把握しているのかが大事になります。どういうNPOがどういう活動をしているのかを把握しているのかと同時に、4の(3)にある社会教育主事や社会教育行政職員との連携が必要になるのだと思いますし、研修が充実され、そうした連携が生まれることにつながっていくのだと思います。是非この建議をベースに、行政としての具体的な行動を、少しでも前に進めてほしいと思います。

小松教育長 きちんと行政としての役割を果たしつつ、県民一人一人に動いていただけるよう周知をしていきたいと思います。

(3) 次回委員会の開催予定について

5月29日(水) 午前10時

<非公開会議結果>

第1号議案 教職員の懲戒処分について

非違行為を行った西部地区の公立中学校の男性教諭(28歳)に対して、免職する懲戒処分等を決定しました。